

南海地震に備えて室内の安全対策してますか？

地震による家具類の転倒を防ごう！



南海地震は、過去歴史的に繰り返し発生し、本県に甚大な被害をもたらしています。また、今世紀前半にも発生することが懸念されている次の南海地震は、今後30年以内の発生確率が、60%程度と予測されており、本県では震度5強から震度6強の強い揺れが想定されています。

近年の地震による被害は、建物の倒壊に加え家具類の転倒による死傷者が多数報告されており、被害の軽減を図るためには、家具類の転倒防止への取組が必要です。

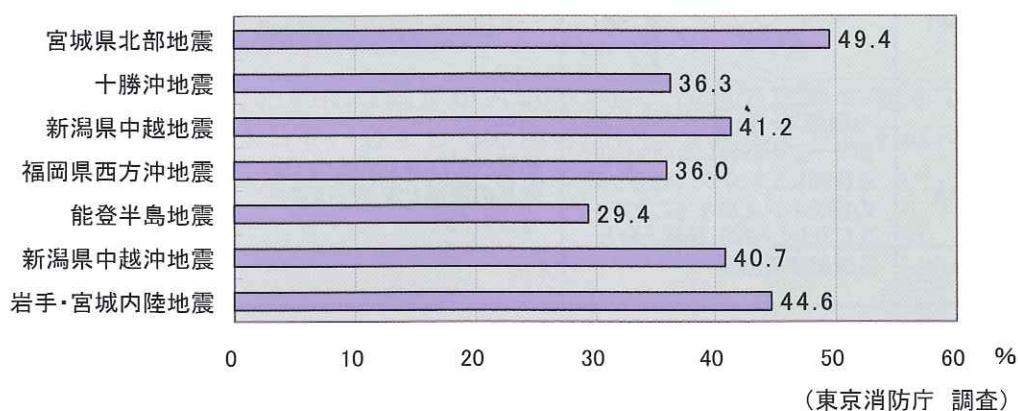
南海地震等の災害に備えて室内の安全対策を実施しましょう。

1. どうして転倒防止が必要か？

近年発生した大きな地震でけがをした原因は、30%～50%の人が家具類の転倒・落下によるものでした。

家具類の転倒・落下により、家具類の下敷きになったり、避難路となる出入口がふさがれたり、割れた食器やガラスでけがをするなど、多くの被害が発生しています。

【近年発生した地震における家具類の転倒・落下が原因のけが人の割合】



災害時における家具転倒の状況



【阪神・淡路大震災 大阪市立大学北浦研究室】

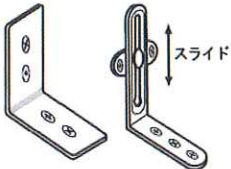
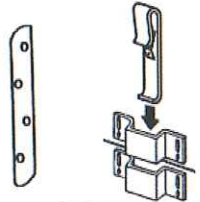
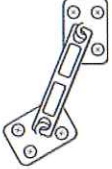



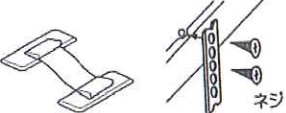




【新潟中越地震 仙台市消防局】

2. 家具転倒防止器具の種類は？

家具類の転倒防止器具には、家具を直接壁に固定するL型金具や、家具と家具を連結する連結用の金具など、色々な種類があります。このような器具は、ホームセンターや建材店、金物店などで販売しています。

家具の種類や家具を固定する壁や天井の材質・強度により使用する器具を選択しましょう。

<p>L型金具</p>  <p>スライド</p>	<p>木製家具用連結金具</p> 	<p>プレート式</p> 	<p>ベルト・チェーン・ワイヤー式</p> 	<p>ポール式(つっぱり棒)</p> 
<p>家具と壁を木ネジ、ボルトによって固定するタイプ</p>	<p>家具の上下を連結して転倒、移動を防ぐためのもの、ネジ止めするための平金具や「かんぬき」状の金具などがある。</p>	<p>家具と壁にそれぞれネジ止めた金具を、金属プレートなどで結んだタイプ</p>	<p>家具と壁にそれぞれネジ止めた金具をベルト、金属チェーン、ワイヤーなどで結んだタイプ</p>	<p>壁などにネジ固定をせず、家具と天井の隙間に設置する棒状のタイプ</p>
<p>ストッパー式</p> 	<p>ストラップ式</p>  <p>ネジ</p>	<p>マット式(粘着マット式)</p> 	<p>ヒートン+ロープによる方法</p> 	
<p>家具の前下部にくさび状に挟み込み、家具を壁側に傾斜させるタイプ</p>	<p>樹脂製ストラップの両端に両面テープを貼付したバックルを連結したものや、ストラップの端をネジ止めることで、主にテレビやOA 機器と台とを連結する器具</p>	<p>粘着性のゲル状のもので、家具の底面と床面を接着させるタイプ</p>	<p>壁にねじ込んだヒートン(端部がリング状になった木ネジ)と家電製品等を細紐などで結んだ方式、主にテレビなどの転倒防止に用いられる</p>	

※これらのほか、家具と天井の隙間の高さ調整できる段ボールや収納庫などの製品もあります。

3. 家具類の固定方法は？

家具類の転倒防止の基本は、壁の棧(さん)と家具の棧をL型金具で固定する方法です。

壁の棧の位置が家具のすぐ後ろにない場合には、横木を壁の棧に取り付け、その横木にL型金具で固定します。

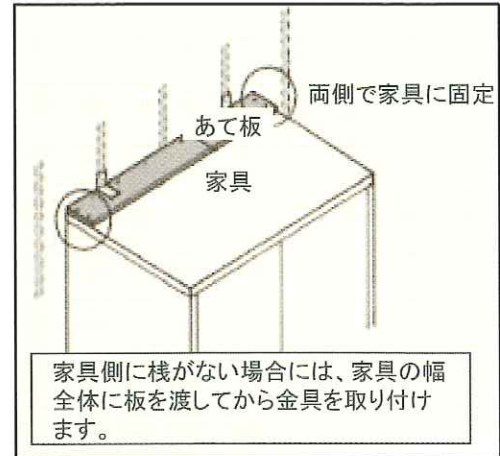
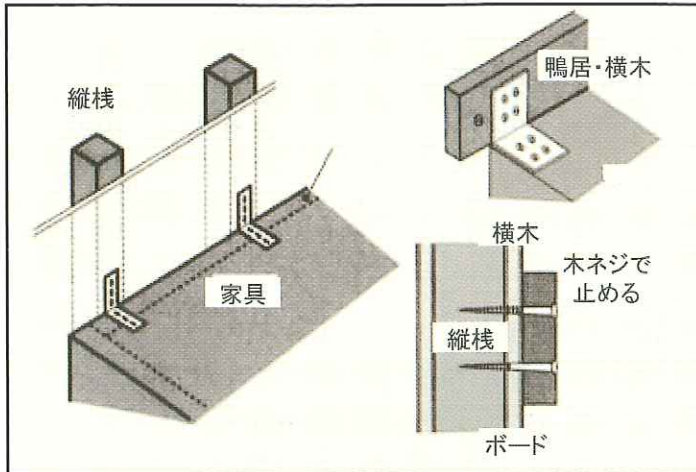
家具側にしっかりとした棧が入っていない場合には、家具にあて木をして固定します。

また、家具が鴨居や横木から離れている場合には、ベルト式やチェーン式などを使って固定します。

L型金具、ベルト式やチェーン式などが使用できない場合で、天井に十分な強度がある場合には、天井と家具の隙間にポール式(つっぱり棒)や隙間を埋める収納ユニットなどを設置して家具を支えます。

上下が分かれている、積み重ね家具は上下を連結して対策を行います。

L型金具での固定方法



家具側に棧がない場合には、家具の幅全体に板を渡してから金具を取り付けます。



ポイント

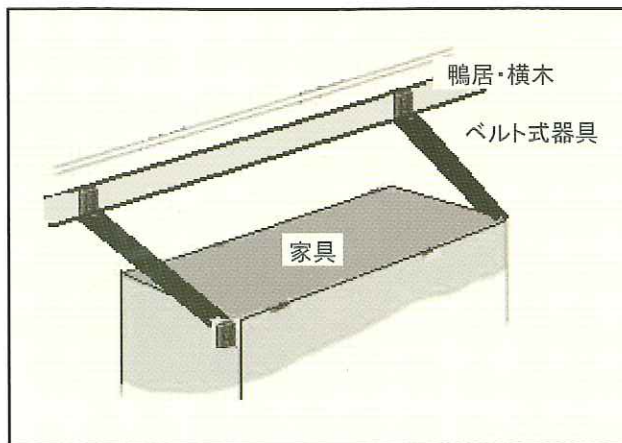
壁の中の棧を探すことが肝心です。
 壁の中の棧を探し出す器具として、ホームセンターなどでは、壁の中の棧を見つけるセンサーやプッシュピンが販売されています。
 ただ、最近の集合住宅に使用されているS1壁やGL壁といった防露壁には棧が入っていない場合もあります。壁の種類がわからない時には、建築士など専門家に相談しましょう。

注意

賃貸住宅や分譲住宅などでは、勝手に壁に金具を取り付けることができない場合がありますので、管理事務所や管理組合に確認する必要があります。



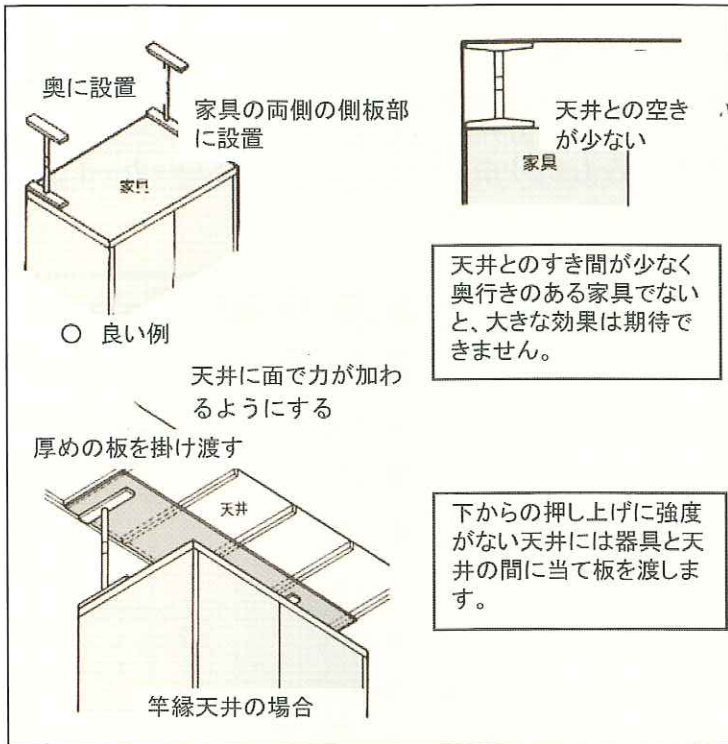
ベルト式、チェーン式の取り付け



ポイント

家具の上部が、鴨居や横木から離れている場合は、ベルトやチェーンなどを使って固定します。
 この場合、家具の側面に30°以下の角度で張るようにしましょう。たるみがあると効果はありません。

ポール式での固定方法



天井とのすき間が少なく奥行きのある家具でない、大きな効果は期待できません。

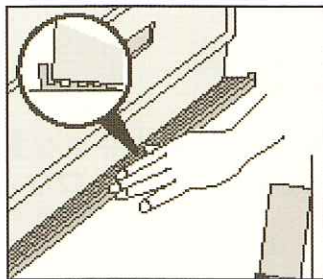
下からの押し上げに強度がない天井には器具と天井の間に当て板を渡します。



ポイント

ポール式を使用する場合には、天井に十分な強度（コンクリート天井など）があることを確認しましょう。また、ストッパー式やマット式と併用して、家具の上下で対策をとりましょう。

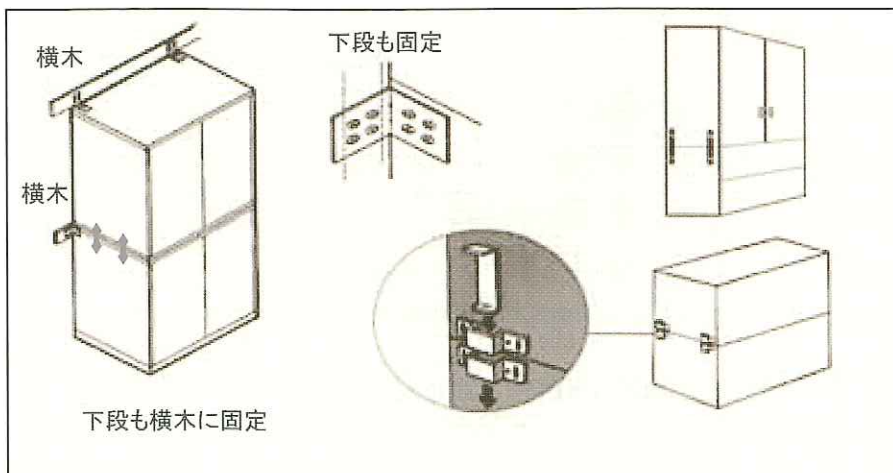
ストッパー式での固定方法



ポイント

家具の端から端まで敷きましょう。ただ、ストッパー式だけではあまり効果がありません。ポール式などと併用し、家具の上下で対策をとりましょう。

積み重ね家具の連結方法

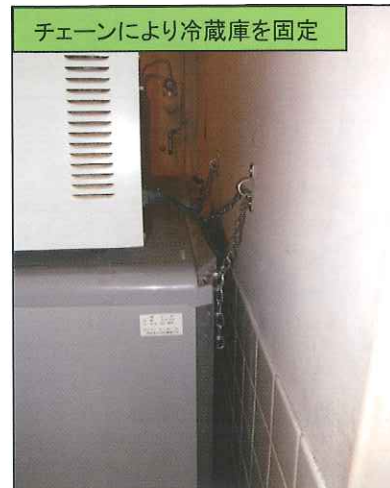


ポイント

積み重ね家具は、連結金具で上下を連結して一体化したうえで、上部を壁の棧に固定するか、上下の家具をそれぞれ固定すれば確実です。

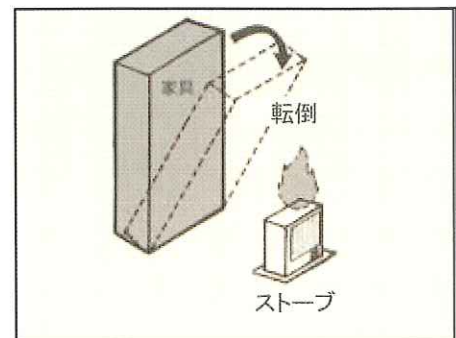
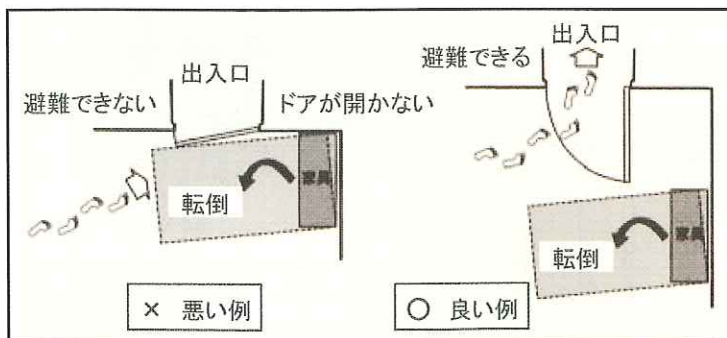
家電製品の固定方法

テレビや冷蔵庫、電子レンジなども忘れずに転倒防止対策を行う必要があります。ただし、家電製品は、日常的に電気を通しており、金具の取り付けにも注意が必要です。取扱説明書に転倒防止の方法を記載しているメーカーもあります。また、メーカーによっては、転倒防止器具を用意しているところもありますので、販売店やメーカーに問い合わせしてみましょう。



4. 家具類の配置にも工夫を!!

家具類の転倒を防ぐためには固定が大切ですが、住宅の立地や構造など、さまざまな条件によって揺れ方が違うので、必ずしも万全とはいえません。家具を就寝場所や出入口などから遠ざけるなど、安全な場所に配置しましょう。



ポイント

家具は出入口付近に置かない、あるいは、万一倒れても通り抜けられる空間を残せる位置に置くようにしましょう。

就寝場所は家具の側方とするか、家具の正面が就寝場所となる場合には、家具の高さ以上に十分な距離をとりましょう。

家具がストーブに転倒して出火したケースがあります。家具の前面にはストーブなどの火気を置かないようにしましょう。

5. その他の対策は？

家具の収納扉が開いて収納物が落下しないように、扉開放防止器具を設置しましょう。

食器棚などのガラスの破損を防止するため、ガラス飛散防止フィルムを貼り付けましょう。

転倒防止対策に加え、家具の下に重い物を収納して、重心を下げて転倒を防ぎましょう。



平成21年度
地震・津波防災ポスター
コンクール

最優秀賞
(小学校4～6年生の部)
藤本和侖さん
(阿波市土成小学校)

【発行】

とくしま地震防災県民会議
徳島県

- ・イメージ図
東京消防庁
(家具類の転倒・落下防止対策ハンドブック)
- ・写真
徳島県家具等転倒防止緊急対策推進事業
(緊急雇用創出事業)

【お問い合わせ先】

徳島県危機管理部南海地震対策課 防災センター啓発担当

電話：088-683-2100 ファックス：088-683-2002

E-Mail：bousaice@mail.pref.tokushima.lg.jp

あなたの家の「瑕疵」の備えは十分ですか？

住宅瑕疵(欠陥)担保履行法(新法)が施行されました。
(社)徳島県建築士会は新法に対応する「住宅保険」(まもりすまい保険)を取り扱っています。

(社)徳島県建築士会 TEL088-653-7570

～このパンフレットは、(社)徳島県建築士会のご協力により作成されています～